



貴重書

賴朝代記

了保

歌川貞重画

六百廿九

上

板

特
19

2
774

壹

頼朝一代記序

元祖南仙笑楚滿人述

抑鎌倉右大将の家系と尋ふ清和帝第六の皇子貝純親王の男源經基
 源氏の姓と賜り其子満仲其子頼信其嫡頼義其嫡義家其子爲義其
 嫡左馬頭義朝男子九人あり一男義平二朝長三頼朝四希義五範頼六全成七
 義圓八義經九義家あり中も頼朝久安三丁卯年正月元日卯刻尾張國幡谷
 生る母の執田大宮司李範の娘なり出産のとき匣空より白旗一流その産家
 の上を舞下り白雲とあり清和故小稚名と白幡丸と号す保元平治の
 乱に我朝の父爲義を始め頼賢頼仲爲宗爲成爲朝爲仲等兄弟
 新院の御謀叛味方一悉く罪せらるる今我朝威勢日々に空く平氏權
 勢盛之後海軍にかけ延信頼隱謀と爲義朝亦是は興一平家と雄雄と争
 去朝敵る故に待賢の二戦ありて尾張國野内海軍家人長尾司忠致爲
 平治二年正月三日浴室を害せり故に男朝長の青墓を自害し義平も誅せり







八月廿日
山王
八月廿日
山王
八月廿日
山王

八月廿日
山王
八月廿日
山王
八月廿日
山王



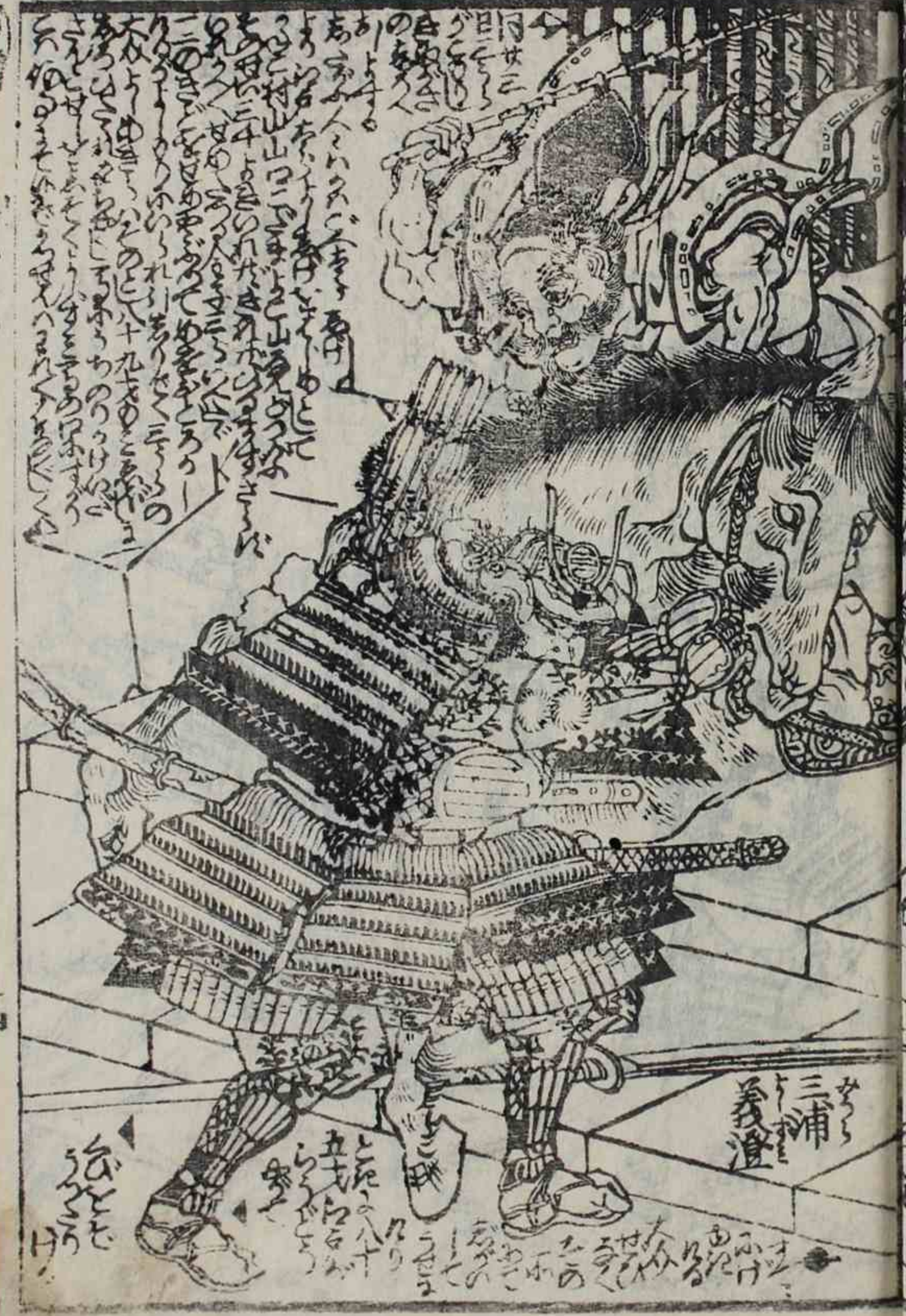
頼朝御陣
八月廿日
山王
八月廿日
山王

八月廿日
山王
八月廿日
山王
八月廿日
山王

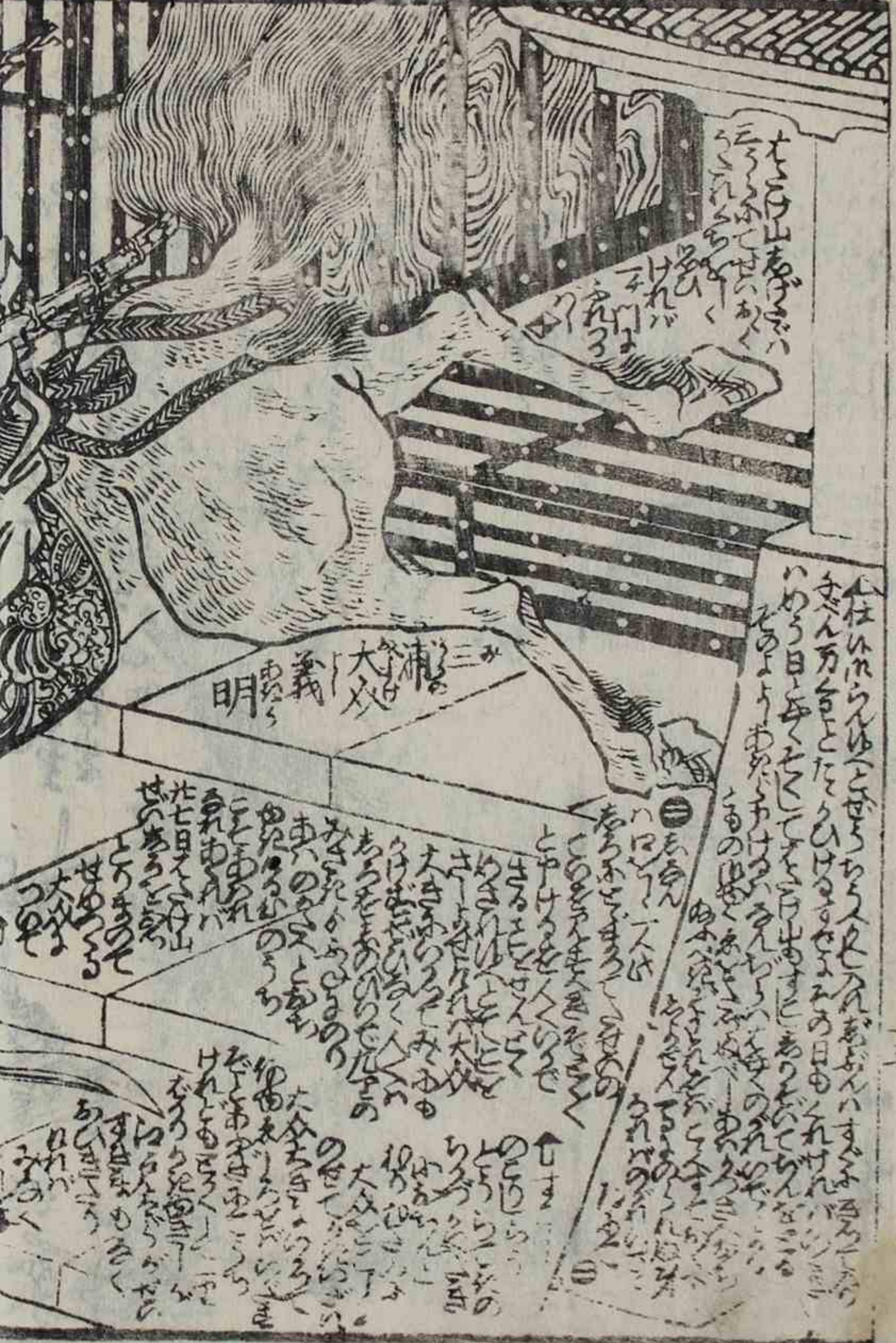
八月廿日
山王
八月廿日
山王
八月廿日
山王







あつちの山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして



あつちの山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして

三浦義澄

三浦義澄

あつちの山をさかして

あつちの山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして
さかして山をさかして

あつちの山をさかして

あつちの山をさかして

日廿八日...
 ...
 ...



長岡

一
 番
 二
 三



内十月よりとあるは...
 人...
 中...

一たび...
 今...
 本田次郎

半次六郎

本田次郎

国文
24L
43

香

...

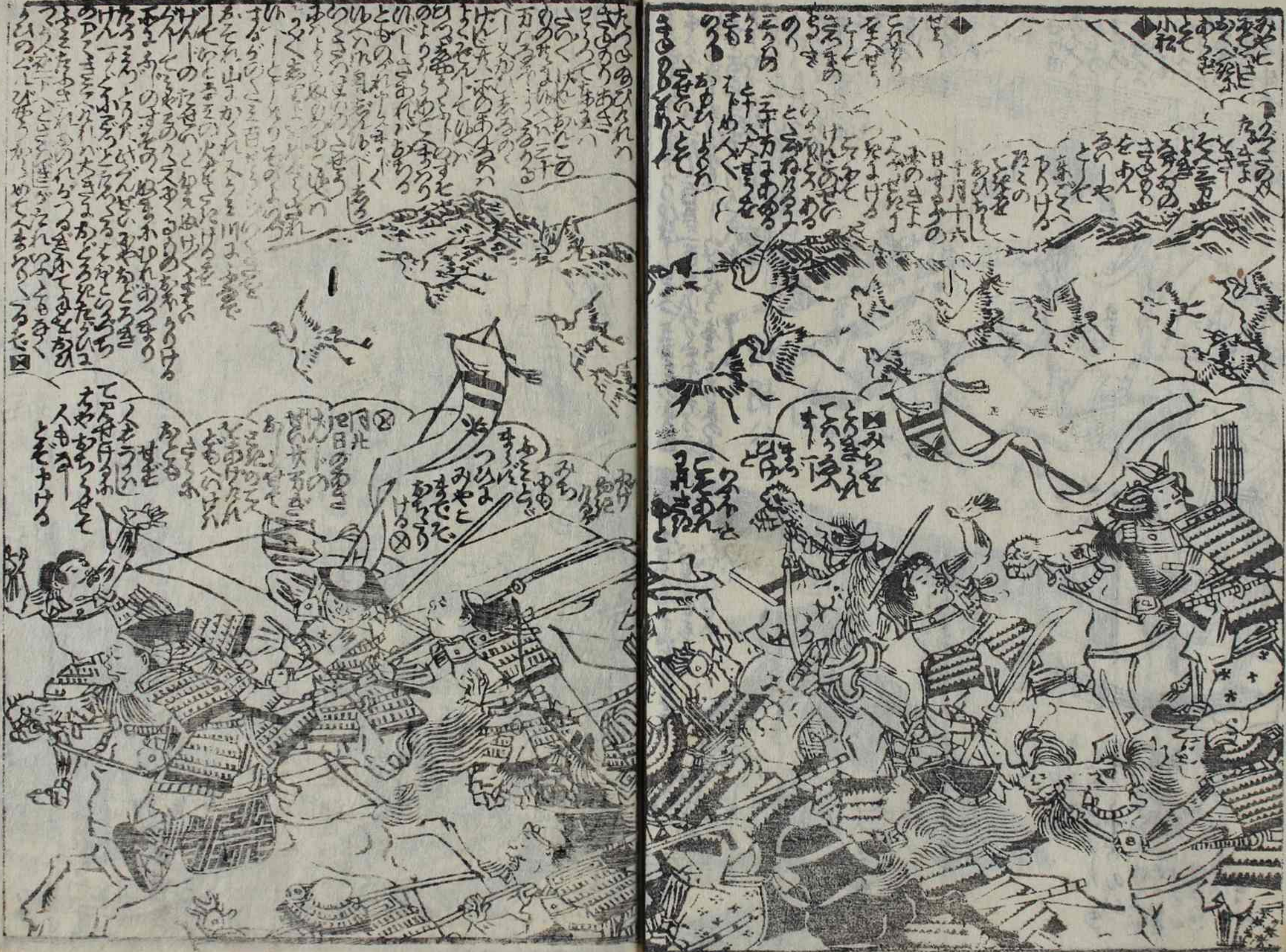


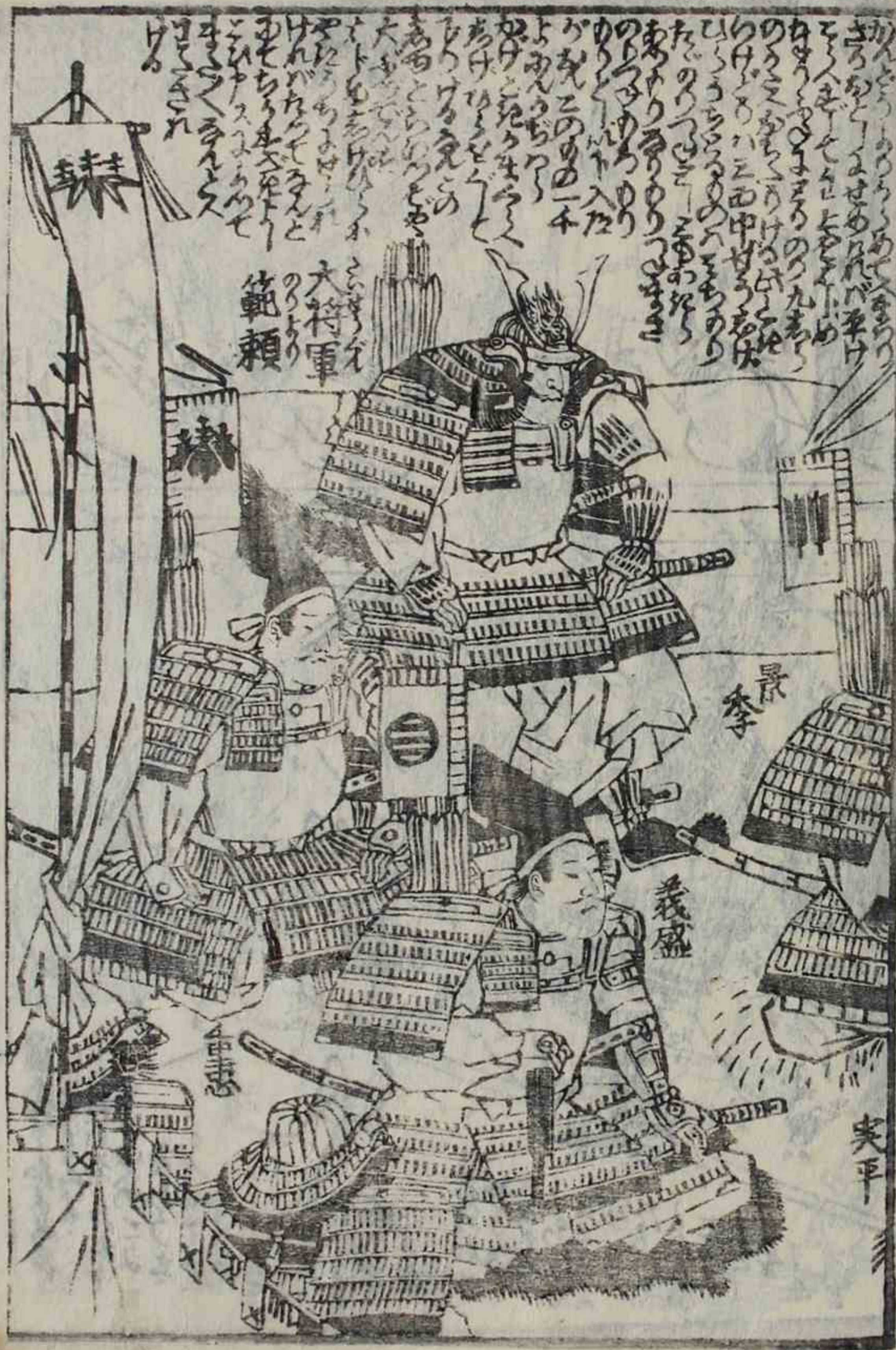


頼朝公

上は... 下は... 百... 百...
 左の... 右の...
 大... 小...
 仲...

全... 半...
 左... 右...
 大... 小...
 上... 下...
 前... 後...
 左... 右...





大將軍
 義盛
 義経
 実平
 景季
 山平



大將軍
 義盛
 義経
 実平
 景季
 山平



...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



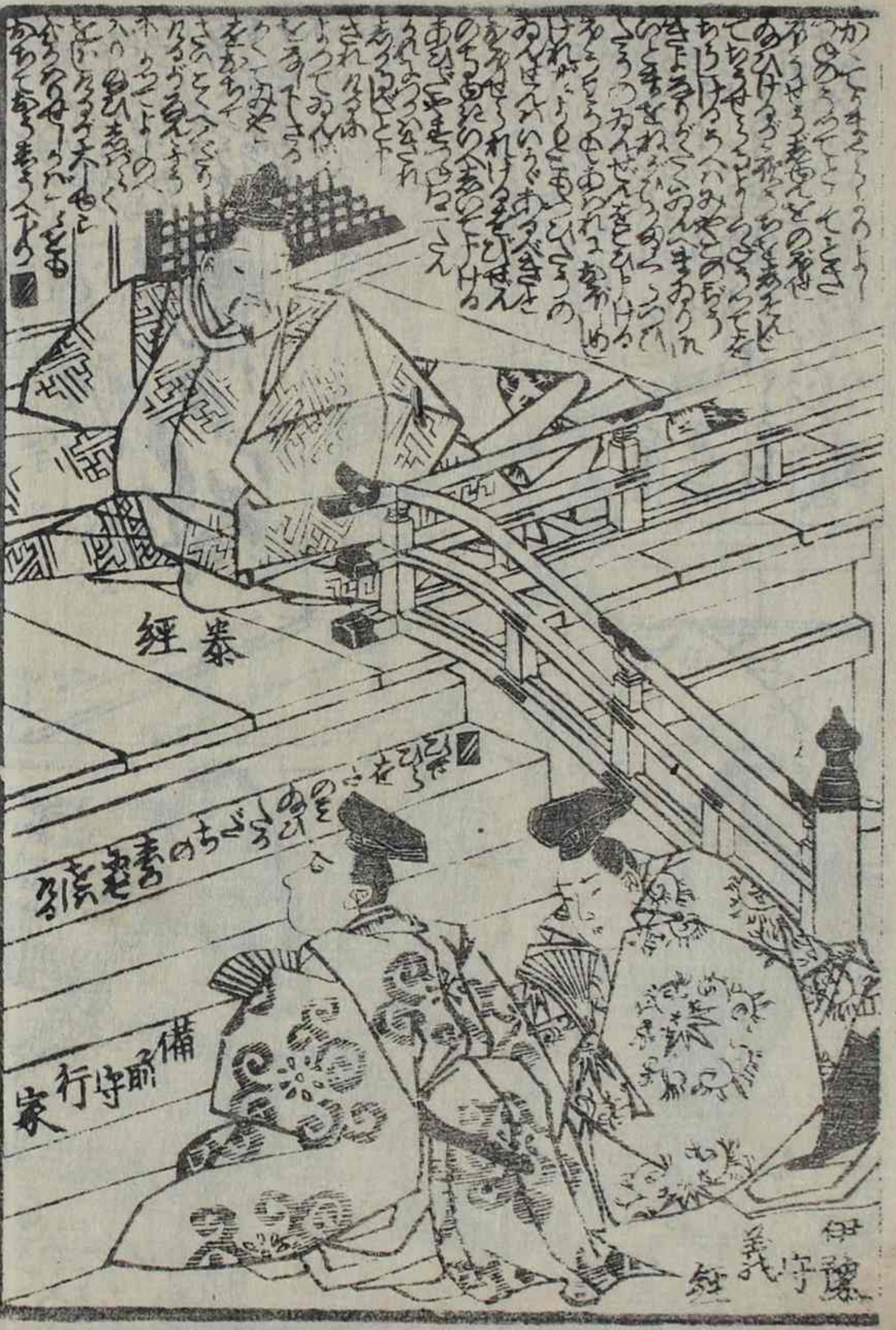
かきつゝまゝに...
あつてゐる...
あつてゐる...
あつてゐる...

義経
の首

義経
の首

時景

河田侯の衛茶



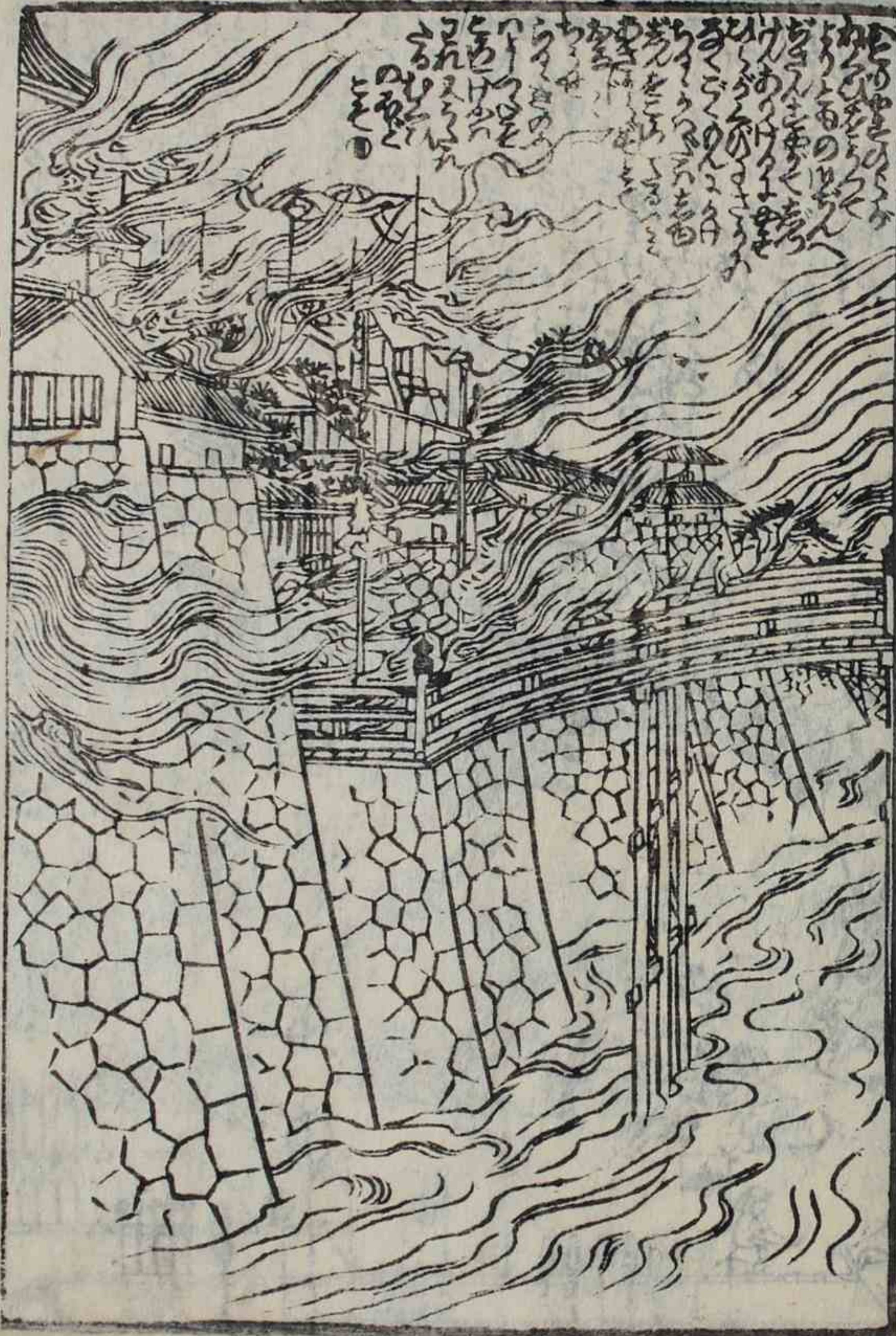
かきつゝまゝに...
あつてゐる...
あつてゐる...
あつてゐる...

泰経

備前守の家

備前守の家

伊豫守の義経



この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる
この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる

山の上

石の城壁



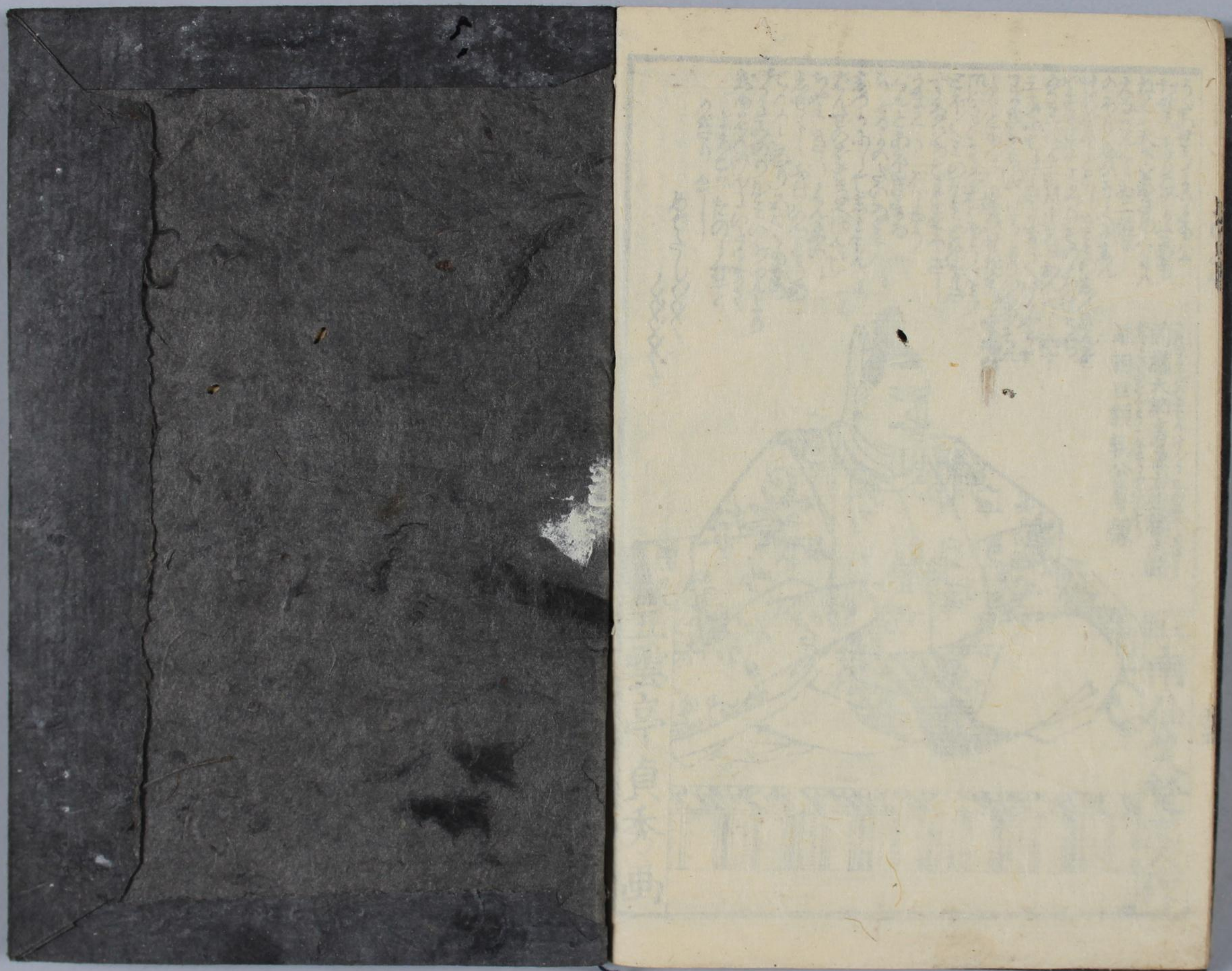
この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる
この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる

この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる

この城は、
山の上にある
石の城壁は
高く、水は
激しく流れる
舟は、この
激しい波に
打ち砕かれる







文
圖書
年度

文
L
3